

6. 事業内容	<p>全体としては、二年目も引き続き研修を中心にインプットを行なっていく。また、地域の学校やソーシャルワーカー、クリニックなど他ステークホルダーとの連携を深め、HIV 陽性者や患者、エイズの影響を受ける子どもたちを地域でサポートしていくための体制づくりにも力を入れていく。</p> <p><b><u>(イ) 地域で患者をケアする在宅介護ボランティア (Home Based Care Volunteer、以下 HBCV) の育成</u></b></p> <p>①HBCV の能力向上のための研修 (HIV/エイズ治療に関する研修、救急法研修、カウンセリング法研修)、②他村、他 NGO の経験から学ぶための経験交流の実施</p> <p>&lt;活動の進め方&gt;</p> <p>本活動の二年目は新規パートナー団体を中心に実施していく。その際、一年目の研修において研修後の能力向上等成果が見られたことを受けて、継続して①周辺 (新規) のパートナー団体とエイズ治療研修、救急法を実施する。②予定どおり他団体との経験交流も実施する。</p> <p>その際、詳細な内容は一年次の評価を受けて見極めていくが、引き続き予防啓発に関する情報提供やケアギバー (患者の家族や世話役) との対話、連携を深め、患者のケアにおけるケアギバーの役割を向上させることでより持続的なケア・サポートが提供できることを目指していく予定。また、地域内のクリニックやその他ステークホルダーとの連携を深めることに注力する。これにより、ケアを必要とする HIV 陽性者やその可能性のある人、子どもたちの情報を適切に共有し、サポートを提供していく方法の選択肢を拡充していくことが可能となる。</p> <p><b><u>(ロ) ケアの必要な子どもの世話をするボランティア (Drop In Center Volunteer/Early Child Development Volunteer、以下 DICV/ECDV) の育成</u></b></p> <p>①DIC ボランティアの能力向上のための研修 (イと同様)、②子ども同士の経験交流、③子どものケアセンター (DIC) に対する、楽器や本などの教材提供</p> <p>&lt;活動の進め方&gt;</p> <p>引き続き①、②を実施。③も二年目に実施予定。子どもたちをサポートしていくには地域関係者との協力が欠かせない。JVC が提供する研修に近隣の教員や関係者を招いて関係構築をはかり、同じ問題意識を共有するステークホルダーを増やしていくようにする。</p> <p><b><u>(ハ) HBCV および DICV による予防啓発活動の強化</u></b></p> <p>&lt;活動の進め方&gt;</p> <p>(イ)、(ロ) の研修を受けて 3 年目から本格的な活動開始。とはいえ、子ども経験交流においてはすでに子ども向け予防啓発を適宜できる範囲で実施している。</p> <p><b><u>(ニ) HIV 陽性者自身によるケアの質の向上と予防啓発活動の促進</u></b></p> <p>①HIV 陽性者が自身をケアできるようになるための研修、②経験交流、④予防啓発活動の促進</p> <p>&lt;活動の進め方&gt;</p>
---------	--

新規のパートナー団体（候補）についてはいずれも団体および協働しているクリニックに SG が不在。このため申請者としては HBCV を通じて地域の個々の陽性者と関係を作っていく。①、②の活動について、こうした個々の陽性者にどのようにアプローチをし、研修等を行なっていけるかは（ホ）など他の活動を行いながら地域と関係を築いていくなかで見極めていく。このため活動は早くても第 2 年次四期から行うこととする。なお、④については今後 SG というすでに活動のあるグループを対象としないことから、①、②を行うなかで、モチベーションスピーカーを招聘するなどの形で活動を促進することとする（陽性者による具体的活動実施は前提となっていない）。

#### **（ホ）生活改善のための家庭菜園づくり**

①家庭菜園づくり研修、②技術定着のためのモニタリング、③経験交流

<活動の進め方>

2012 年度に活動村内で育成したファシリテーター（DICV 約 10 名）とトレーナー、アシスタントを中心に、一年目に研修を実施した村の人たちの実践の定着に力を入れ、各村の中での実践を広げていく。また、新規パートナーの HBCV およびコミュニティの人びとへの研修を実施する。研修受講者の 80%が何らかの形で実践を開始していることを目指す。